



追悼

4月25日 9時18分 事故を風化させない

JR福知山線事故犠牲者遺族・大邱地下鉄火災事故犠牲者遺族 ICLS・大邱地下鉄労組・韓国公共交通ネットワーク・JR西労

JR西日本・福知山線事故から7年

JR西日本福知山脱線事故から7年を迎えた4月25日、JR西は発生時刻の9時18分、事故現場で犠牲者の冥福を祈り黙祷・献花をおこなった。今年は韓国・大邱地下鉄火災事故の遺族らも来日。福知山線事故遺族とともに事故現場に参列した。JR総連傘下単組も追悼の横断幕を掲げるなど、400名以上が参列した。



▲ 事故現場(左の建物)前で「事故を風化させない」と横断幕を掲げ黙祷する福知山線犠牲者遺族の藤崎光子さんと被害者家族の西尾裕美さん、韓国・大邱地下鉄惨事犠牲者対策委員会のファン ミュンエさん、ユ チュンファさん、ナム ジョンヒさん。韓国からは大邱地下鉄労組のキム イナ委員長をはじめ、ICLSのオ ヨンファン執行委員、公共交通ネットワークのオ ソンゲン運営委員長らも参列した。

JR西労

懲罰的な社員管理反対！

営利優先・運行第一・社員への責任追及・労使癒着の

不安全な企業体質を一新する集会

JR西労は現地での黙祷・献花ののち、福島区民センターに510名を結集し、集会を開催した。田村委員長は、「運転士不適合」で多くの運転士が他職へ配転されるなど、事故調が福知山線事故の原因とした「懲罰的運転士管理」が現在も続いていると指摘。工務に働く組合員が安全な労働環境を求め訴訟を起こしたことや、政府・民主党や国交省へ要請行動をおこなったことも報告され、企業体質の一新を訴えた。遺族らは「犠牲者が安らかに眠り、安心して電車に乗れるよう期待」「日韓の鉄道労働者と遺族が協力して安全な世界を」と語り続けた。JR総連傘下の各単組代表からも連帯の挨拶がおこなわれた。集会後、JR西労組合員は、各地方で灯籠流しや鐘撞をおこなった。終日、鎮魂と安全を誓う取り組みをおこなった。また、事故発生と同じ時刻に列車を運転中の組合員は、追悼の汽笛を響かせた。



▲ 集会で訴える韓国 2・18 大邱地下鉄三時犠牲者対策委員会のファン ミュンエ事務局長